

# な か ま

プリンストン日本語学校

平成28年度 No. 37

平成29年2月12日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org



## 「先生、おなか」「課長やばい」

先日は雪が降り、学校が休校になったところも多かったようです。皆さんが事故や怪我等なく無事に過ごされたことを願っております。まだまだ寒さが続きますが、暦の上では立春を迎えました。旧暦では新年を迎えることとなりますが、子どもたちの新たな成長の始まりとしたいものです。◆さて、表題の言葉に聞き覚えはないでしょうか？日本で担任をしている時には、子どもたちからこのような言葉をよく聞きました。「先生は『おなか』ではないぞ」と返しますが、子どもたちにしてみれば「おなか痛い」ということを察してほしかったのだと思いますし、できればその後「保健室に行って見てもらいなさい」という言葉を期待していたのだと思います。日本の学校において日常的に見られることですが、担任としては「おなか痛いので、保健室に行ってもいいでしょうか。」といえるよう促していきます。以心伝心・察し合い、ということも日本文化の良さではありますが、このような「単語族」になっていくのは、言語形成はもとよりコミュニケーション能力や社会での関係性を築いていくことが難しいものとなります。皆さんのご家庭ではいかがですか？子どもの単語に対し、聞き手がその意図を先回りしていくことは、その子にとって決して親切なこととは言えませんね。



◆サラリーマン川柳に「部下の言う『課長やばい』は褒め言葉」という作品がありました。「やばい」が肯定に使われていることは面白いですが、「キモイ」「ムカツク」等々、あまり品がいいとは言えない言葉が、学校の中のみならず社会の中で氾濫しているようです。時として、こうした言葉以外では自分の気持ちや思いを伝える術を見いだせない子どももいて、何とも切ない思いになったこともあります。◆意図の伝わる話し方をさせていくことや、品位に問題のある伝え方を改めていくためには、表現の豊かさを身につけていくことが肝心です。また、相手の気持ちを思いやりながら伝えるという力を育てるには、やはり周囲の大人の配慮が不可欠です。前号と重なりますが、これもまた、日本語環境の一つといえますので、ご家庭でのご配慮をお願いします。

## お知らせ

◆年度途中で帰国されるお子さんには通知表をお返しします。退学の時期によっては成績評価が出来ない場合がありますので、ご了承ください。ご帰国の皆さん、これまでの本校へのご協力に心より感謝いたします。お子さんの更なる成長を願っています。帰国時に適応状況

報告書をお渡ししますので、編入校にご提出ください。

◆本日NJ補習校より9名の職員の皆さんが授業参観に来校し、各教室でお子さんたちの頑張る様子を見ていただきます。

## 今後の予定

|       |  |
|-------|--|
| 本 日   | 新入生授業見学(各教室)<br>新一年生入学説明会/YMCA キャンプ説明会 |
| 2月19日 | 総務オフィサーミーティング                          |
| 2月26日 | 入園説明会/YMCA キャンプ説明会<br>係担当部長連絡会         |
| 3月 5日 | 体験入園                                   |
| 3月12日 | 卒業式練習                                  |
| 3月19日 | 卒業式                                    |



## 海外子女文芸作品コンクールより③

(2 ページ目に続きます。敬称略)

「作文」の部:佳作

「言葉と周りの環境」

五年 後藤 美海

私は、一年前にアメリカのニュージャージー州、プリンストン町に引っこして来ました。アメリカに来て、すぐに現地校に入り、すぐに近所に友達もできました。なぜそんなにスムーズだったかという、日本のようち園の時に、インターナショナルスクールに通っていたからです。そこでは、外国人やハーフの友達がたくさんいて、英語で遊んでいました。

もし私が全然英語を話せなかったら、私はアメリカの学校に行く前に日本で特別に英語の勉強をしなければならなかったでしょう。もしかしたらアメリカでも、日本人だけがいる学校に行きたいと思ったかもしれません。だから、日本で英語をやっていた良かったと思います。

今はアメリカで、日本語と英語、両方ががんばっていますが、やはり日本語のほうがわかりやすいです。テレビや本も日本語の方を見たくります。笑いたい時や、マンガを見たいときは、やっぱり日本語になります。英語は話せますが、両親とも友達とも日本語で話し、日本語の環境で育ったので、日本語の方がわかりやすいです。

私には、もうすぐ二才になる弟がいます。赤ちゃんの時に、アメリカに来ました。両親も私も、弟には日本語で話しています。この前、飛行機に乗った時に、弟と同年の子がいたのですが、その子は、もう「up down」や、「Thank you」と話せていました。おどろいて、私はその子

# な か ま

のお母さんに「どうしてそんなに言葉が話せるのですか？」と聞いてみました。すると、そのお母さんは「この子は上に、お兄ちゃん、お姉ちゃんもいて、保育園に通っているから言葉が早いのだよ」と教えてくれました。

それを聞いて、私は「なるほど」と思いました。弟は家の中で両親と私から日本語だけで話しかけられているので、外で聞く英語は「よくわからない言葉」なのだと思います。うちでは、弟が何か良く出来た時「すごいね」と言ってほめてあげます。でも、英語では「Good Job!」と言うので、弟は家族以外の人にほめられてもわからないのです。私は、このまま英語も日本語も、ごちゃごちゃになってしまっただけで、弟は大丈夫なのかと心配になったので、お母さんに聞いてみました。

お母さんは、「じゃあ、美海が英語で話してよ。ママが日本語で話すから。」と言いました。そこで、私は、弟に英語で話してみました。すると、はじめは全く聞いてくれなかったのですが、聞くようになりました。そして、この前はじめて弟が自分で「のお」と言いました。「No!」を覚えてくれたのです。もともと「ダメ」は理解していたので、弟は1才で、「No!」と「ダメ」の二ヶ国語を覚えられたのです。こうやって周りの人が、たくさん言葉を話しかければ、弟はこれからも日本語も英語も関係なく覚えてくれるのかもしれないと思いました。

お母さんが「今度、日本に一時帰国したら、二ヶ月間もいるし、おじいちゃん、おばあちゃんもいるから、きっとたくさん言葉を話すようになるよ。」と言いました。私もそう思いました。弟には、日本に帰ってから英語で話そうと思います。

もし、他の外国の言葉を話せるようになりたいと思ったら、まずその国へ行くことが一番良いと思います。でも、普通は、そんなに海外に住むことはできません。私が幼稚園の時に通っていたインターナショナルスクールの先生は、絶対に英語しか話しませんでした。英語を早く覚えるには、こうやって日本でもずっと英語で話す時間があったほうが良いと思います。または、6年生が終わったら、すぐに中学に行くのではなくて、海外に一年間交かん留学すれば良いと思います。

言葉は、覚えようとすると、むずかしいですが、自然に耳に入ってくれば、簡単だと思います。私の弟も私も、これからはたくさんの友達を作って、たくさんの人と話すことが一番言葉を覚える近道だと思います。

私は小さいころから、日本語と英語を両方習ってきて良かったと思っています。だから、弟も日本語と英語の両方が話せるようになったらいいと思います。



プリンス頓日本語学校



平成28年度 No. 37

平成29年2月12日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org

これからもがんばって、日本語と英語でたくさん話しかけてあげようと思います。

## 「詩」の部:佳作

「一人の私に二つの国」

五年 佐藤 彩良

日曜日は  
おにぎり  
月曜日は  
サンドイッチ



日本語学校は  
焼きそば  
現地校は  
マカロニ・アンド・チーズ

一つの家  
二つの国

一人の私  
二つの国

日曜日は  
日本語

月曜日は  
英語

日本は  
私の家  
アメリカは  
私の家

一つの心  
二つの国

一人の私  
二つの国